

広島は八月六日、被爆から七十四年の「原爆の日」を迎えた。約五万人の参列者は「平和の鐘」が響き渡る中、原爆投下時刻の八時十五分に黙とうをささげた。広島市長の平和宣言のあと広島市の小学生から選ばれた子ども代表で、いずれも六年生の金田秋佳(しゅうか)さん(11)と石橋忠大(ただひろ)君(11)が「平和への誓い」を宣言した。(東京新聞 2019/8/6)

#### ◆「平和への誓い」

私たちは、広島の町が大好きです。

ゆったりと流れる川、美しい自然、「おかえり」と声をかけてくれる地域の人、

どんなときでも前を向いて生きる人々。広島には、私たちの大切なものがあふれています。

昭和20年(1945年)8月6日。

あの日から、血で染まった川、がれきの山、皮膚がはがれた人、たくさんの亡きがら、

見たくなくても目に飛び込んでくる、地獄のような光景が広がったのです。

大好きな町の「悲惨な過去」です。

被爆者は語ります。「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、

次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。

「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままで終わらせないために。

二度と戦争をおこさない未来にするために。

国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を

思う気持ちは同じです。

みんなの「大切」を守りたい。

「ありがとう」や「ごめんね」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、

助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。

自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。

大好きな広島に学ぶ私たちは、互いに思いを伝え合い、相手の立場に立って考えます。

意志をもって学び続けます。

被爆者の思いに、私たちの思いを重ねて、平和への思いを世界につなげます。

令和元年(2019年)8月6日

子ども代表

広島市立落合小学校6年 金田秋佳(しゅうか)

広島市立矢野小学校6年 石橋忠大(ただひろ)